

久留米市セーフコミュニティ現地審査 スケジュール

	平成30年7月30日（月）	平成30年7月31日（火）
9:00		
		活動視察 9:30~10:50 ⑦防犯対策委員会 【コミュニティワ-上津校区会館】
10:00	10:00~11:00 ①市の概要説明 SCの取組み 【久留米市庁舎401会議室】	
11:00	11:20~12:20 ②交通安全対策委員会 【久留米市庁舎401会議室】	11:20~12:20 ⑧DV防止対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】
12:00	13:00	13:00
	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00	13:30~14:30 ③高齢者の安全対策委員会 【久留米市本庁舎401会議室】	13:30~14:30 ⑨学校安全対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】
14:00		
15:00	活動視察 15:00~16:30 ④防災対策委員会 【久留米広域消防本部 消防防災センター】	14:50~15:50 ⑩児童虐待防止対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】
16:00		審査員ミーティング
17:00	17:00~18:00 ⑤自殺予防対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】	16:30~17:30 審査員講評 (久留米市SC推進協議会) 【久留米シティプラザ大会議室】
18:00	18:20~19:20 ⑥外傷等動向調査委員会 【久留米シティプラザ中会議室】	
19:00		
20:00		



久留米市セーフコミュニティ 交通安全対策委員会

発表日 2018年 7月30日
発表者 交通安全対策委員会委員長 出田 照彦
所 属 (一社) 久留米市交通安全協会



1.交通安全対策委員会の構成メンバー

区分	No.	所属
関係団体	1	(一社)久留米市交通安全協会
	2	久留米市交通安全指導員
	3	久留米市地域交通安全活動推進委員協議会
	4	久留米安全運転管理連絡協議会
	5	久留米市老人クラブ連合会
	6	久留米市小・中学校PTA連合協議会(中学)
	7	(社福)久留米市社会福祉協議会
警察	8	久留米警察署 交通第一課
	9	うきは警察署 交通課

区分	No.	所属
行政機関	10	福岡国道事務所久留米維持出張所
	11	福岡県久留米県土整備事務所
	12	久留米広域消防本部 救急防災課
	13	久留米市健康福祉部 長寿支援課
	14	久留米市教育部 学校教育課
	15	久留米市都市建設部 道路整備課
	16	久留米市都市建設部 交通政策課 (2016年追加)
	17	久留米市協働推進部 安全安心推進課

＜委員構成の見直し＞ 久留米市交通政策課を追加 (2016年)

※自転車利用促進・公共交通との整合性を図るため

2.交通安全対策委員会の開催経過（認証後）と主な議題

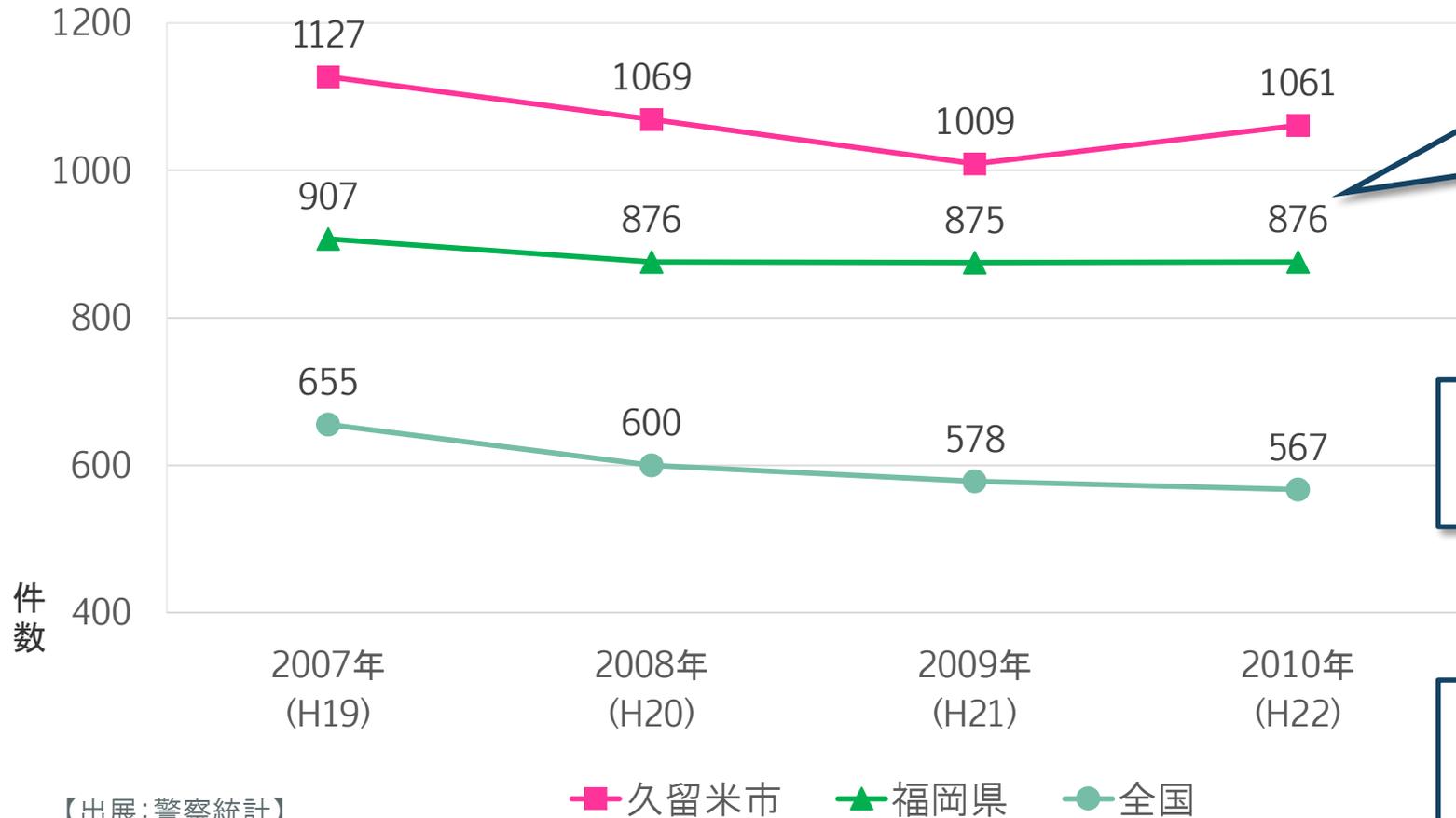
回数	開催日	主な協議事項
第10回	2014.6.26	具体的な取り組み(施策)の進捗、今後の取り組み方針
第11回	2014.10.24	年間活動報告、進捗状況、セーフコミュニティフェスタ
第12回	2015.4.22	指標の見直し、2014年度取り組み実績、2015年度取り組み方針
第13回	2015.10.2	全市一体となった啓発・裾野拡大の取り組み、セーフコミュニティフェスタ
第14回	2016.4.22	2015年度取り組み実績、2016年度取り組み方針 これまでの取り組みに関する効果確認・改善
第15回	2016.12.7	具体的施策の検証
第16回	2017.4.28	2016年度取り組み実績、2017年取り組み方針 再認証事前指導のプレゼン資料 ケガや事故の実態調査
第17回	2017.6.22	再認証事前指導のプレゼン資料、セーフコミュニティフェスタ
第18回	2017.10.23	再認証事前指導
第19回	2018.4.12	再認証本審査、2017年度取り組み実績、2018年取り組み方針

3-1.交通安全対策委員会の設置の背景

★客観的データ

<2011年取り組み開始時>

図1 交通事故発生件数の比較（人口10万人当たり）



当時
交通事故(人身事故)の
発生件数は、減少傾向だが・・・
県や国と比べ、高い水準

交通事故を減らすため
取り組みの強化が必要

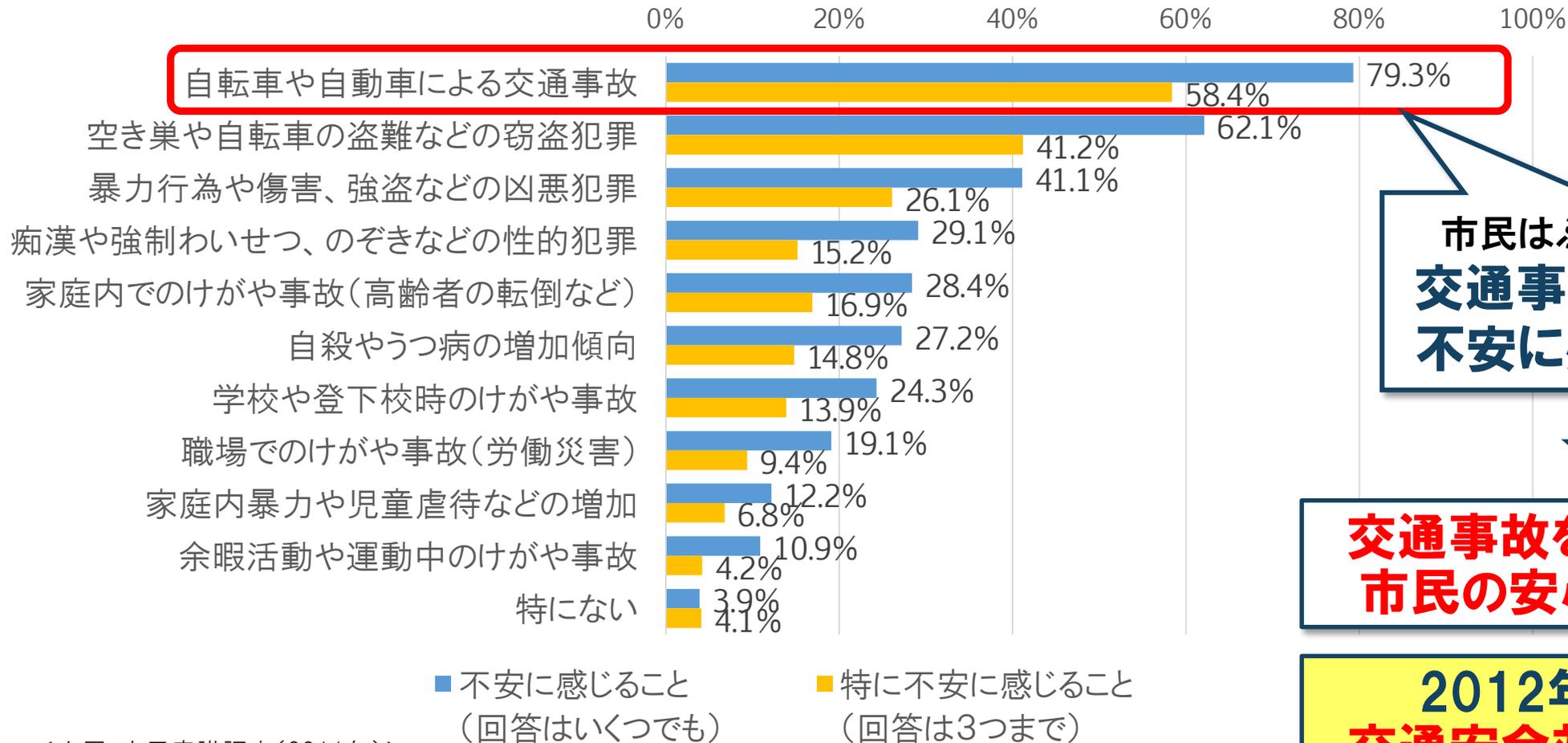
**セーフコミュニティで
交通事故の予防を！**

3-2.交通安全対策委員会の設置の背景

★主観的データ

<2011年取り組み開始時>

図2 ふだんの生活で不安に感じること



市民はふだんの生活で
交通事故をいちばん不安に感じている！

**交通事故を予防することで
市民の安心感が高まる！**

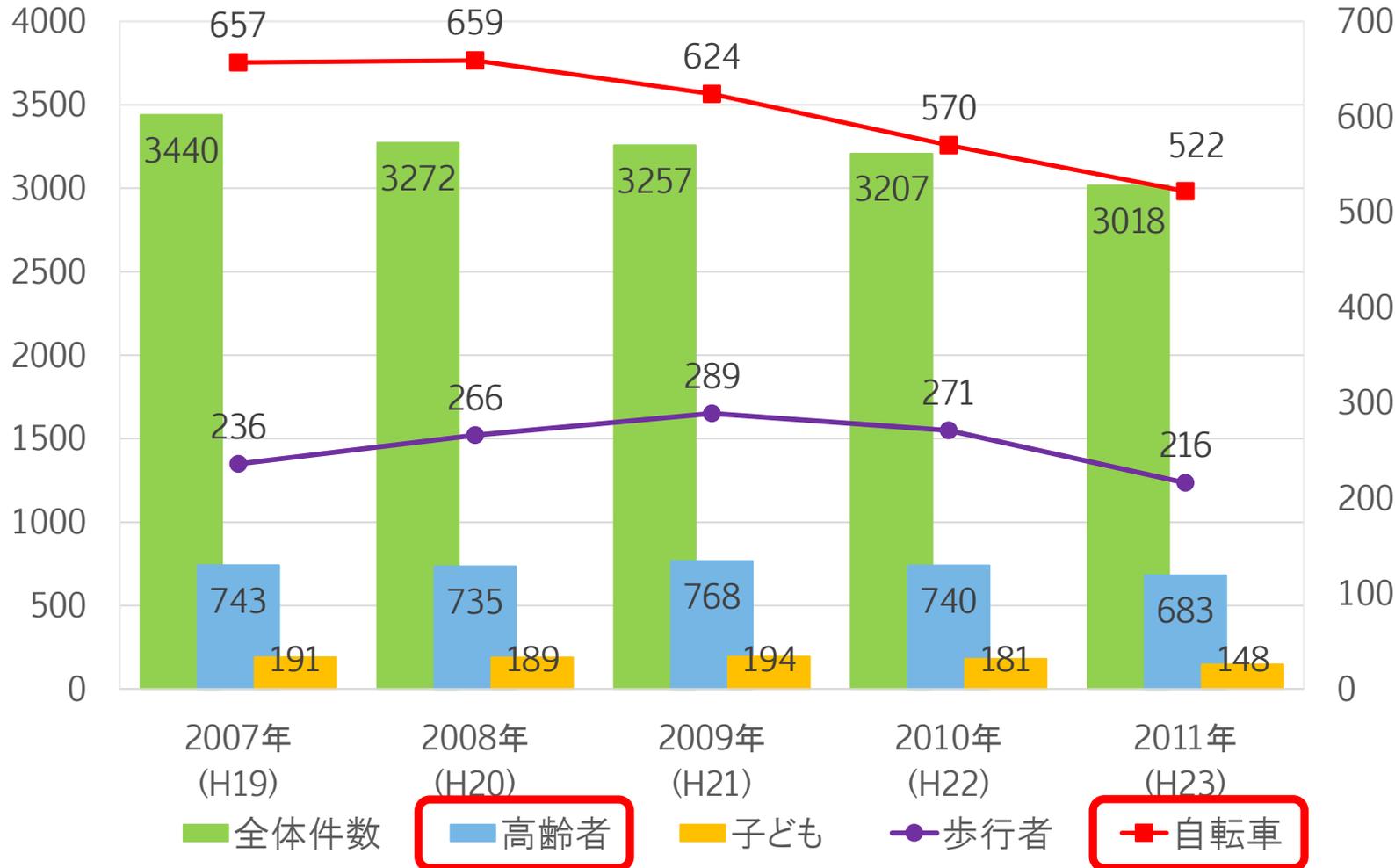
**2012年(H24)3月
交通安全対策委員会設置**

<出展:市民意識調査(2011年)>

4-1. 問題の整理（2011年 取り組み開始時）

図3 久留米市内の交通事故の発生状況

【出展：警察統計】



特徴①
子どもに比べ
高齢者関連事故が多く、
全体件数が減少傾向で
ある一方、
増加～横ばい傾向

特徴②
歩行者に比べ
自転車関連事故が多い

4-2. 問題の整理（2011年 取り組み開始時）

【出展：警察統計】

図4 全事故に占める高齢者関連事故の割合

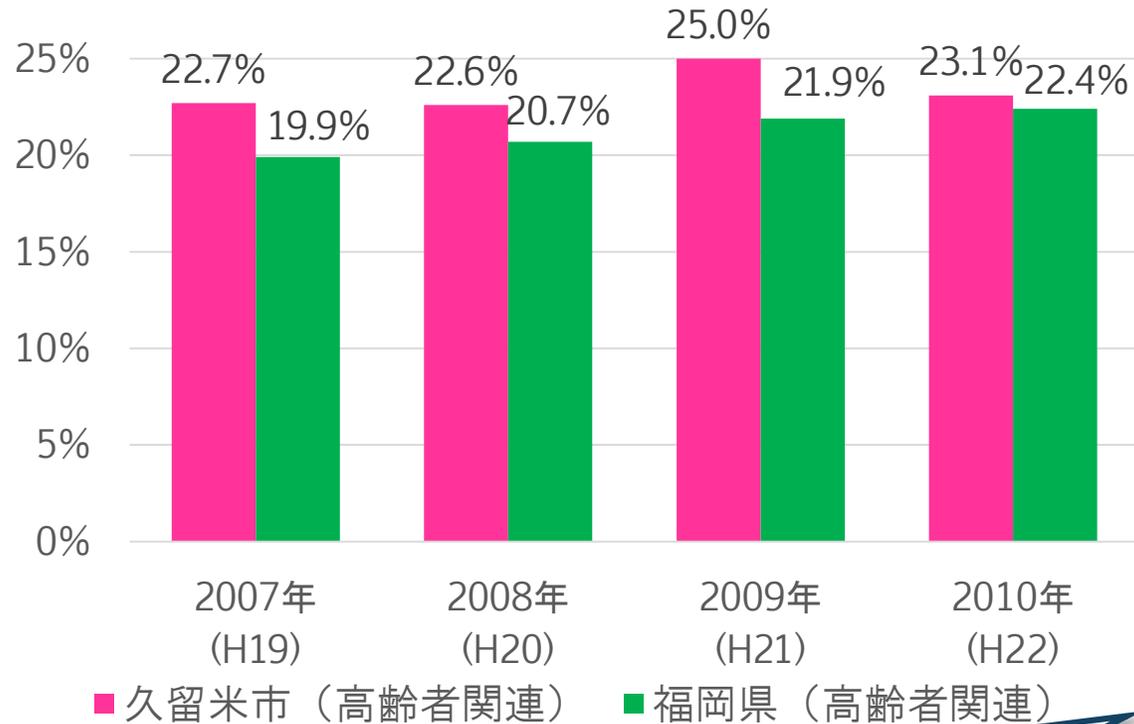
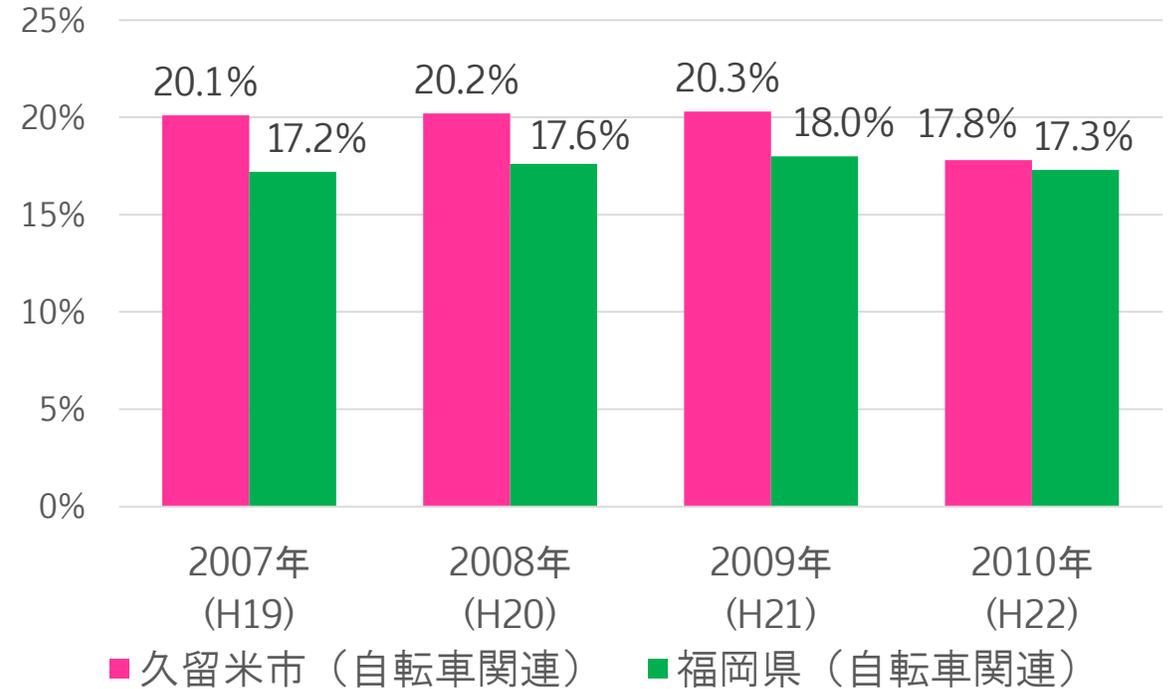


図5 全事故に占める自転車関連事故の割合



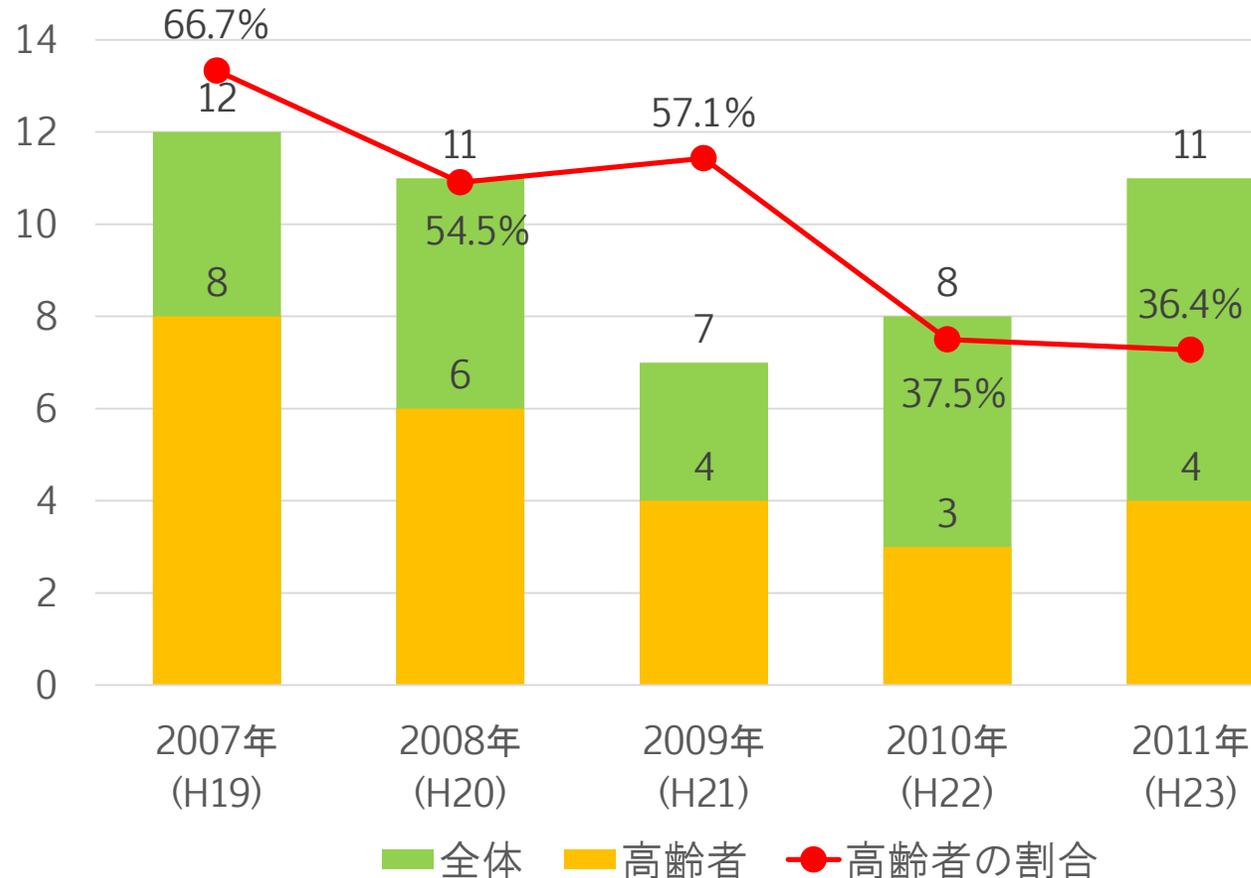
高齢者関連事故・自転車関連事故の割合は
ともに県平均を上回っている

＜高齢者の交通事故防止＞
＜自転車事故の防止＞
重点取り組み項目に設定

4-3. 問題の整理 (2011年 取り組み開始時)

【高齢者の事故防止】

図6 交通事故による死者数(うち高齢者)



【出展:警察統計】

交通事故による死亡者
半数以上は高齢者
(5ヵ年平均:51.0%)

高齢者の死亡事故のうち
歩行中が最も多い
(5ヵ年計:25人中11人)

<高齢者死亡事故の傾向>

- ・道路横断中
体力に応じた行動を取れていない
- ・薄暮時～夜間の歩行中
ドライバーに気づかれにくい

4-4. 問題の整理（2011年 取り組み開始時）

【高齢者の事故防止】

対策委員会で出された意見・問題

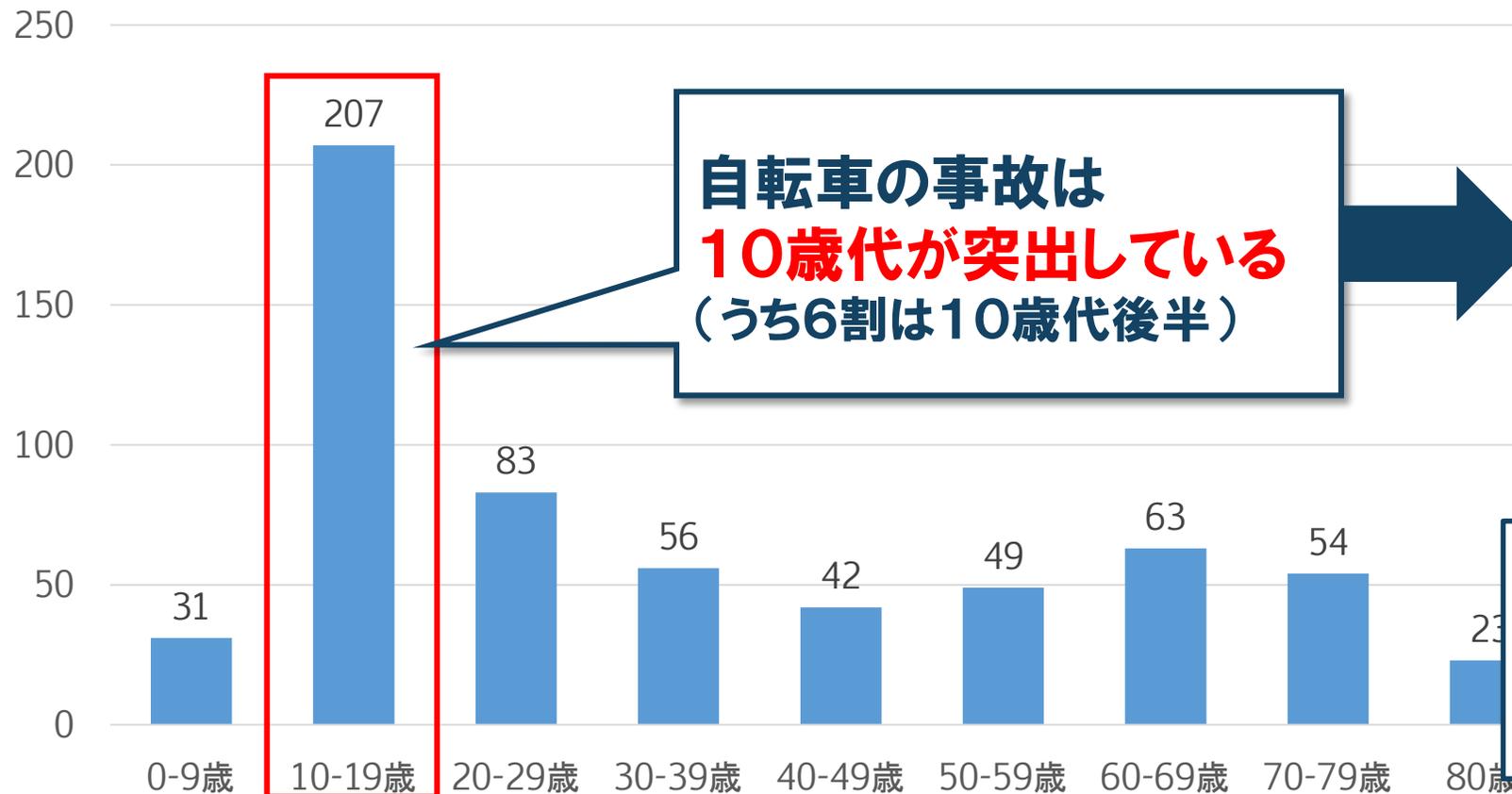
- ・自動車運転免許を持っておらず、交通情勢やルール等を知らない方もいる
→ 交通安全知識を得る機会が少ない**高齢者への啓発が不足**
- ・住んでいる地域でも、**どこで交通事故が起きているのか知らない**

4-5. 問題の整理 (2011年 取り組み開始時)

【自転車事故の防止】

【出展: 警察統計】

図7 年代別 自転車関連事故発生件数(2007-2011年平均)



自転車の事故は
10歳代が突出している
(うち6割は10歳代後半)

10歳代は自転車の利用率が高いのに加え、
＜10歳代前半＞
自転車に慣れていない
＜10歳代後半＞
通学など行動範囲の拡大

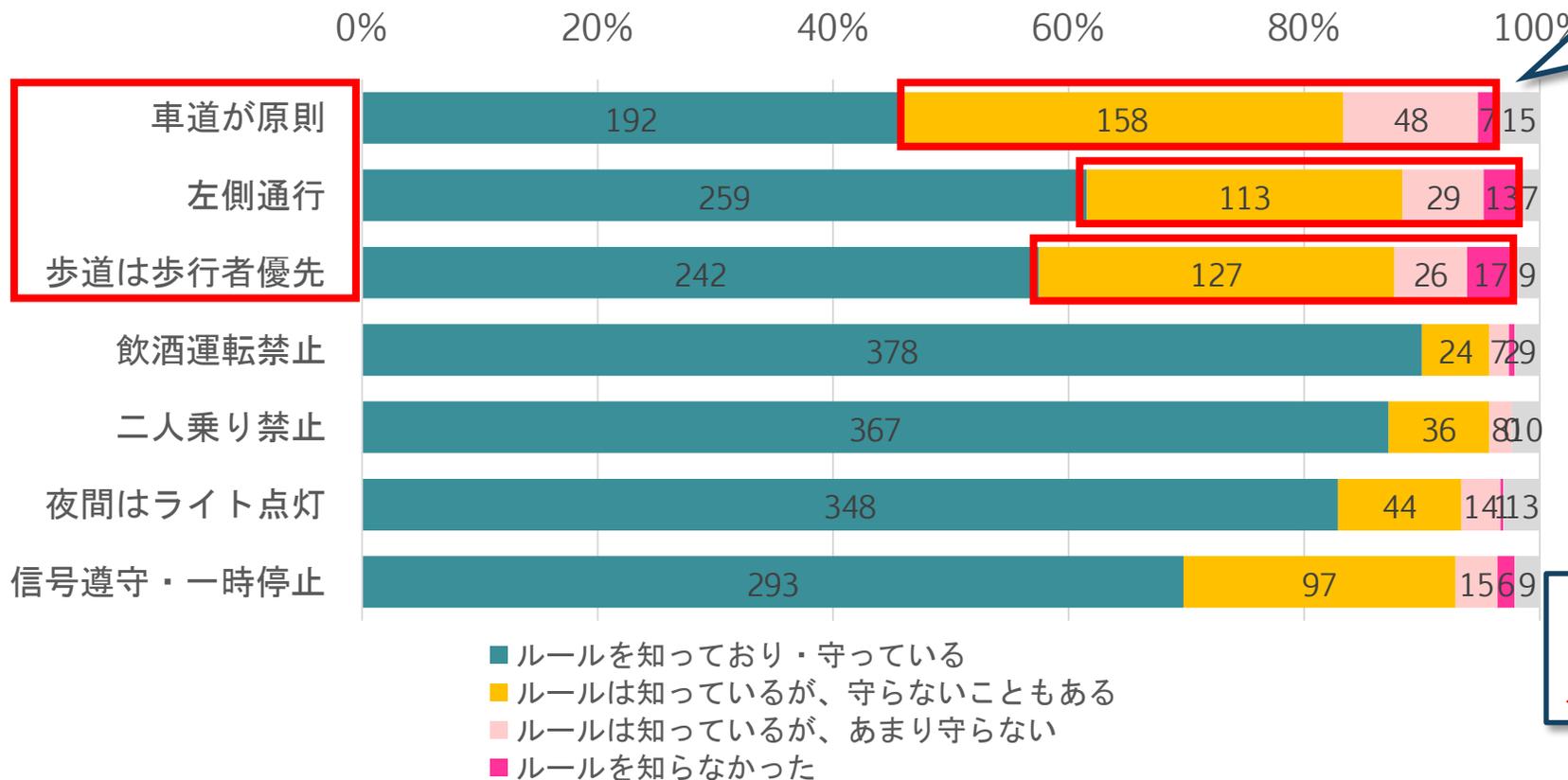
年代に応じた
交通安全教育の充実が必要
特に、これまで不足していた、
中学・高校生へのアプローチが重要

4-6. 問題の整理 (2011年 取り組み開始時)

【自転車事故の防止】

【出展: 市自転車利用者に対するアンケート】

図8 自転車に関する交通ルールの認知状況(2013年) N=420



車道や歩道の通行方法を
**守らない・知らない者が
非常に多い**
特に、車道通行を守らない者は
半数を超えている

自転車は車両であるという
意識が低く、それに伴い、
ルールが守られていない

自転車を安全に利用するため
ルールの徹底が必要

5. 問題解決に向けた方向性（2011年取り組み開始時）

【高齢者の事故防止】

体力の変化に気付いていない

高齢者への啓発不足

自らの体力を自覚した行動の意識付け
→ 様々な機会を捉えた講習の実施

夜間歩行中の事故

ドライバーからの早期発見
→ 明るい服や反射材の着用が効果的

どこで事故が起きているか知らない

交通危険箇所の把握
→ 危険箇所を知ったうえでの対策

【自転車事故の防止】

若年層の自転車事故

中学・高校生へのアプローチ不足

交通ボランティアの活用など、
指導者確保による教室の充実

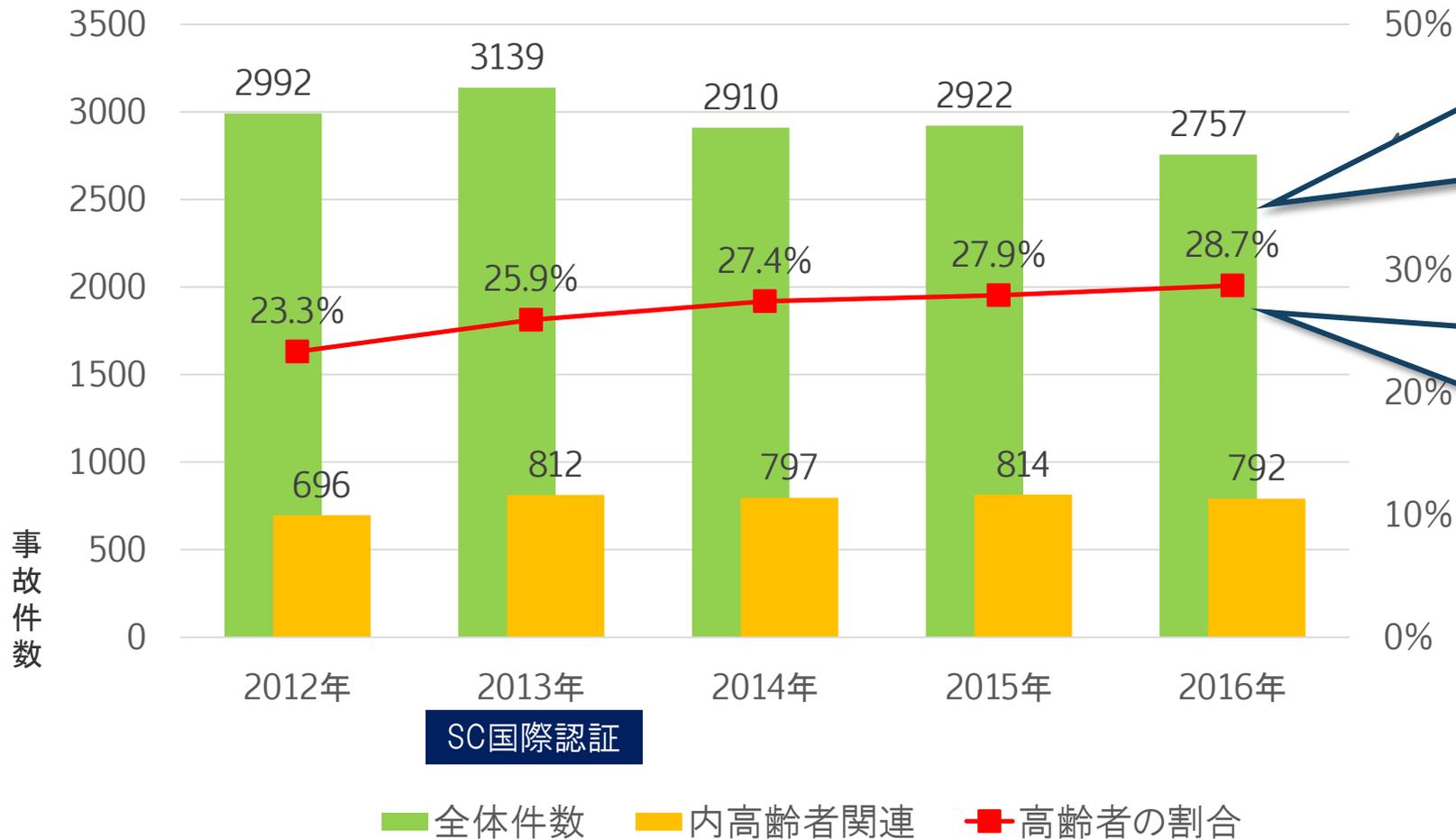
自転車ルールへの認識不足

自転車を安全に利用する意識付け
ルール遵守の徹底

6-1. 新たな問題 (最近の交通事故発生状況)

【出展：警察統計】

図9 高齢者の関連事故件数



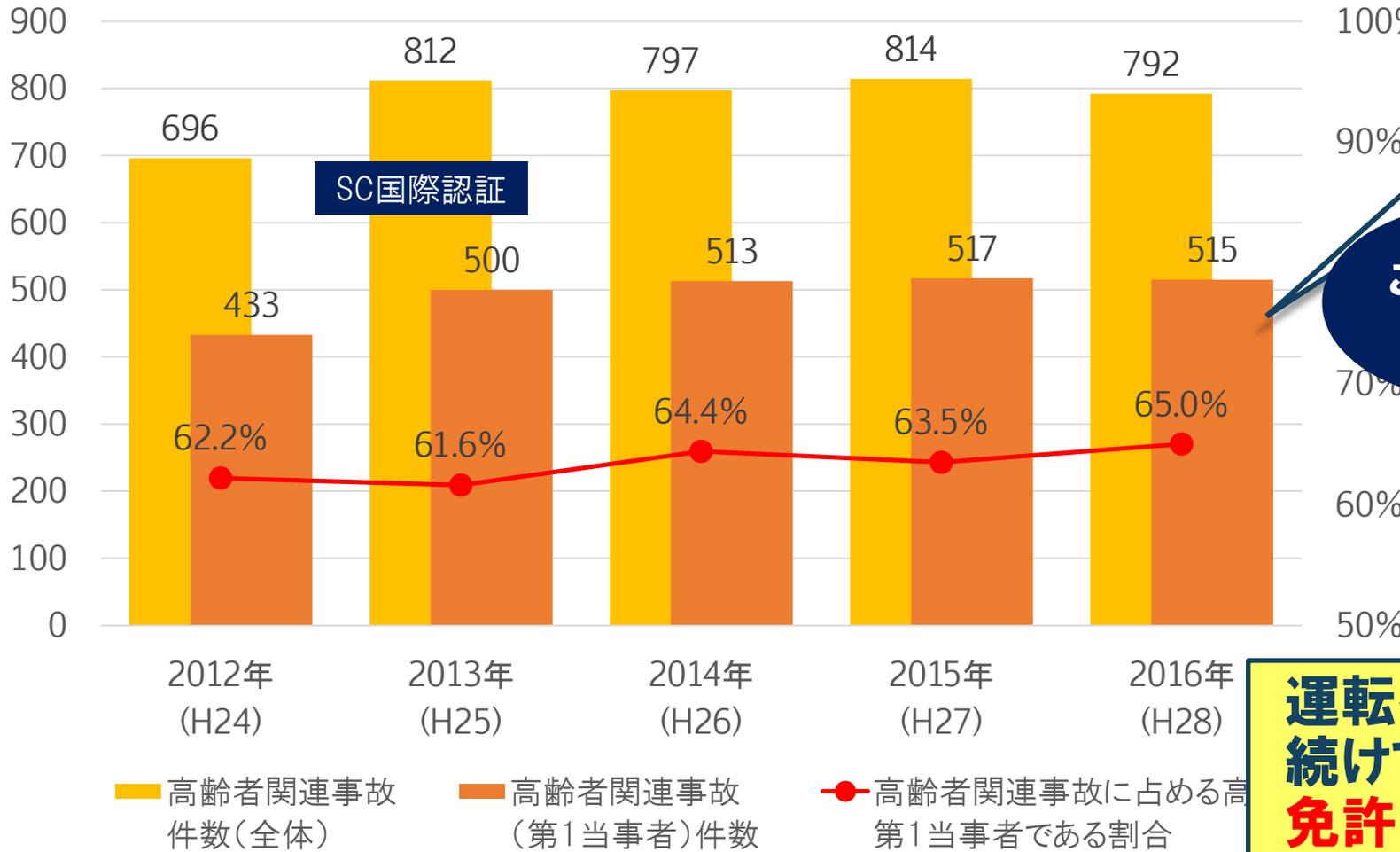
交通事故全体の件数が減っている一方、高齢者関連事故の件数は増加～横ばい傾向

全事故に占める高齢者関連事故の割合は増加を続けている

データの再分析
検証が必要

6-2. 新たな問題（最近の交通事故発生状況）

図10 高齢者関連事故に占める第1当事者 【出展：警察統計】



高齢者が**第1当事者**（**加害者**）である割合が年々増加！

高齢ドライバーが起こす事故の抑止・予防が重要！

これまでの取り組み

身体機能の変化に応じた安全運転を呼びかけ

安全運転の啓発だけでは成果が出ていない

運転を止めたくても事情により運転を続けている方が存在
免許自主返納制度を周知、推進
することなどで、事故を抑止
【2017年に具体的施策を見直し】

7.問題解決のための具体的施策

対象	問題	方向性	NO.	見直し	具体的施策
高齢者	自らの体力の変化に 気付いていない 高齢者への啓発不足	自らの体力を自覚した 行動を意識付けるため 様々な機会を捉えた 講習を実施	1	高齢者を対象とした交通安全講習	
				2017年	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施
	夜間歩行中の事故	ドライバーからの 早期発見	2	明るい服や反射材の着用キャンペーンの実施	
	どこで事故がおきているか 知らない	交通危険箇所の把握	3	安全安心マップの作成	
自転車	若年層の自転車事故	指導者確保による 教室の充実	4	交通安全教室の実施	
	自転車ルールの認識不足	安全利用の意識付け ルール遵守の徹底	5	自転車安全利用キャンペーンの実施	

8.レベル別の対策

重点 取組	対 策			
	方向性	国県レベル	市レベル	地域レベル
高齢者の 事故防止	教育・啓発	交通安全計画の策定	交通安全教室の実施 街頭キャンペーンの実施	運動能力、認知機能の自覚 反射材の着用 老人クラブなどでの注意喚起
	規制	道路交通法による規制	法や制度の周知 運転免許自主返納の支援	制度の理解 ルール・マナーの遵守
	環境整備	信号機や横断歩道の設置	公共交通網の整備 道路照明灯の設置	防犯灯の設置
自転車事故の 防止	教育・啓発	交通安全計画の策定	交通安全教室の実施 サイクルイベントの実施	ヘルメットの着用 自転車の安全点検 交通安全教室への参加
	規制	道路交通法による設置 福岡県自転車条例	法や制度の周知 自転車利用促進計画の策定	制度の理解 ルール・マナーの遵守 自転車保険の加入
	環境整備	道路環境の整備	道路環境の整備 自転車通行空間の整備	

8. レベル別の対策

重点 取組	対策委員会の役割			対 策	地域レベル
	高齢者の 事故防止	教育・啓発	規制	環境整備	<p>関係機関・団体が連携し・・・ 交通安全に関する各レベルの効果を高めるため・・・</p> <p>★具体的取り組みの推進、充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンペーン、教室、イベント、啓発物の作成など <p>★情報収集、発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度改正、事故発生状況など <p>★セーフコミュニティ理念の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践する団体や市民の拡大
自転車 事故の 防止	教育・啓発	規制	環境整備	<p>交通女王教室への参加</p>	<p>着用 全点検 参加</p>
	教育・啓発	規制	環境整備	<p>法の周知 自転車利用促進計画の策定</p>	<p>制度の理解 ルール・マナーの遵守 自転車保険の加入</p>

**市民が交通事故に遭うリスクを減らすことによる
「安全安心のまちづくり」**